

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

令和7年3月13日
南丹市長

市町村名 (市町村コード)	南丹市 (262137)
地域名 (地域内農業集落名)	美山町鶴ヶ岡地域 (今宮、栃原、砂木、棚、川合、殿、舟津、松尾、神谷、 名島、洞、田土、上吉田、林、庄田、脇、熊壁、山森)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月29日 ～ 令和6年12月19日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題※

・農業者の高齢化に伴い、遊休農地の増加が懸念されることから農地中間管理機構を通じて担い手への農地集積を進めている。また、農事組合を通じ、若い農業者へ向けたトラクター等農業機械の操作方法の指導も進めている。

・農機具や農業機械の物価が高騰、維持修繕の費用も嵩み、負担が増え不安な状況である。

現在の耕作者が離農すると、後継者の大半が地域を離れてしまっているため、農地の引継ぎが難しい状況である。また、当地域は急な傾斜や湾曲した農地が多く所在しており、そういった農地は保全管理が精一杯の状況である。

※は実質化された人・農地プランと同程度の項目です。以下同じ。

(2) 地域における農業の将来の在り方※

・農作業の共同化、農業機械の共同利用で集落の農業を持続させることが必要である。また、畔、水路、農道の保全管理は各個人では負担がかかるため、地域で全体の問題として取り組みを進めて行く。

・後継ぎとなる担い手が地域内に少数のため、確保・育成は難しく課題ではあるが、地域外からの農地を利用してくれるものを探す努力が必要である。

・中山間地域の獣害は甚大で喫緊の課題であることから、市の補助制度等を活用し防護柵の設置等の対策を講じていきたい。

・米作以外の農作物の収穫を検討することや農作業効率化のための農事組合所有のオペレーター等、耕作機械の老朽化に伴う更新に向けた対応及び、地域内外から耕作者やオペレーターの確保を進めるための組織作り等体制の構築を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	108.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	108.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及び農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針※

担い手間の話合いや地域の集会でしっかりと話をし検討していきたい。

(2) 農地中間管理機構の活用方針※

多様な担い手の意向を汲み取りつつ、農地中間管理機構へ段階的に集積・集約化を進める。

(3) 基盤整備事業への取組方針※

未整備田については大区画化等を検討していきたいが、後継者が地域を離れて生活しており、また、諸費用負担についての同意が得られるかが課題である。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針※

地域内だけでなく、地域外からの多様な担い手の確保・育成に努める。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針

農事組合が草刈りなどの作業を実施する体制を整える。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策※	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

①鳥獣害防止を徹底して、農業意欲が継続できる仕組みづくりを構築する。また、捕獲人材の確保を進める必要があり、猟友会と協力し進めて行きたい。

②減農薬・化学肥料を低減した農業を目指す。

③低コスト、省人口化を目的とし、情報収集、精査しできることを取り入れていきたい。

⑤耕作放棄地等については果樹園に変更し所得の向上につなげる。

⑦地域でコミュニケーションを取り、地域ぐるみで農地を保全管理する体制を整える。